

「女子力」と「男らしさ・女らしさ」に違いはあるか

- 測定語の変遷に着目して -

おおうえ まあや てらだ ゆうき
大上真礼 寺田悠希

〈要 旨〉

近年、人口に膾炙している「女子力」という概念について、その下位概念を構成するものが従来の「男らしさ・女らしさ」と異なるかについて探ることを目的に先行研究を概観した。「女子力」に関する研究を概観した結果、女性は男性に比べて「女子力」のイメージとして外見に関する項目を選ぶ者が多いこと、雑誌記事が想定する女子力と大学生たちが実際に考える「女子力」にはギャップがあることなどが明らかになった。次に、「男らしさ・女らしさ」の測定語の変遷を性格・身体・行動に分けて概観した。変化していない測定語も多かったが、「やさしさ」が女らしさの測定語のみならず、男らしさの測定語としても出現し、逆に男らしさとされてきた「包容力」が女らしさの自由記述でも挙がるようになるなどの変化があった。また、行動面では消費行動とその性らしさを結びつける研究はほとんどなかった。「女子力」と女らしさの測定語を比較すると、「女子力」は比較的短期間の行動で獲得・維持できるといった側面が女らしさと異なることが明らかになった。また、性格や消費以外の行動面では直接的に役に立つものが「女子力」とされていることもうかがえた。

以上の結果を踏まえて、「女子力」の獲得願望や自己認識がメンタルヘルスに与える影響などについて、その性らしさとは異なる角度から検証していく必要があることが示唆された。

〈キーワード〉

女子力、男らしさ、女らしさ、性役割、測定項目

I. 問題と目的

1. 背景

(1) 問題意識

近年、人口に膾炙した言葉として「女子力」がある。実際に 2016 年 11 月 12 日に「女子力」と

いう語でgoogle検索を行ったところ、約 2,100 万件がヒットし、類義語と考えられる「女らしさ」の約 199 万件の 10 倍以上という結果となった。このことから、社会的に「女子力」という語に対する注目度が高いことがうかがえる。

では、「女子力」とはどのようなものでどの程度知られているものなのだろうか。デジタル大辞泉¹⁾によると、「女子力」は“女性が自らの生き方を向上させる力。また、女性が自分の存在を示す力。”とされ、[補説]として“平成 21 年(2009)ごろからの流行語。明確な定義はなく、女性らしい態度や容姿を重んじること、女性ならではの感覚・能力を生活や職業に生かすことなど、さまざまな解釈で用いられる。”とも書き加えられている。この 2009 年は「女子力」がユーキャン新語・流行語大賞の候補語 60 語にノミネートされた年である。そのときの「女子力」の定義は、“漫画家の安野モヨコが提唱。「きれいになりたいと願い、行動する力」という意味で使われるが、最近ではその意味はさらに広くなり、女性であることを楽しむ積極性や、女性特有の魅力を高めていく前向きな姿勢を指すようになった”²⁾とされていた。また、吉田秀雄記念事業財団が 2014 年に首都 30km 圏の 750 名を対象に行った調査³⁾では、男性でもおよそ 9 割が「女子力」という言葉を認知していることや、“「女子力」という言葉から連想される人物のイメージについて、(中略) 気配りができる(53.3%)、料理が上手である(46.4%)、オシャレである(39.2%)、思いやりがある(35.1%)、美意識が高い、向上心がある(32.0%)などのイメージが中心となっているのが全体的な傾向”(p. 47)ということが明らかにされている。

このように、「女子力」はその語が様々な場で使われ、多くの人に認知されているものの、曖昧でかつ幅広い下位概念を持った言葉だといえる。そして一種の「能力」としてとらえられていると考えられる。曖昧でかつ幅広い概念を持っている能力という点からは、「女子力」は本田(2005)⁴⁾で提示された概念である人間存在の全体あるいは深部にまで及ぶ「業績」で評価される「ハイパー・メリトクラシー」に必要な“努力やノウハウとはなじまない”(p. 23)ポスト近代型能力の一種であると考えることができる。他方で、「女子力アップグッズ」のようにあるものを持つだけで「女子力」が上がるとする記事もインターネット上で散見される。つまり、「女子力」は能力というよりも、努力を要せずにノウハウに従って簡単に身に纏えるものであるととらえられているのである。

ところで、「女子力」や男らしさ・女らしさといった、その性らしさやその性ならではの能力、それを自分が持ち合わせているかどうかの認識は、心理的な適応にも結びついていると思われる。女子短大生において、自らの性役割として男性性・女性性の双方が高いと認識していると自己評価が高く学校生活への適応もよいといった報告(鹿内・後藤・若林, 1982)⁵⁾や、伝統的な性役割観が変化しつつある現代においても女性の多くは女性性の特性を有している上に不適応的であったとする山本(2005)⁶⁾の調査などがその関連を示している。また、性役割に含まれる因子の中で、どれがメンタルヘルスに影響しているかが男女で異なるなど、性別ごとに自分の性らしさについての認識と適応の関連の仕方が異なるとする報告(三川・井上・芳田, 1991)⁷⁾も存在する。しかし、2016 年現在において、「女子力」と心理的適応やメンタルヘルス等に関する調査・研究は筆者ら

が確認する限りではみられていない。

また、「女子力男子」といった語も出現してきており、「女子力」は以前より人々の間で認識されたり文献において測定・報告されたりしてきた単なる女性らしさ・女らしさとは異なる可能性がある。そのことをふまえると、従来の女性性や女らしさ・男らしさと「女子力」の違いを明らかにすることには一定の意義があるといえる。

(2) 本研究の目的

以上の議論を受け、本研究では日本における「女子力」および男らしさ・女らしさについての社会学・心理学両分野の研究を概観する。中でも、特に「女子力」や男らしさ・女らしさがどのような概念で構成されているかに着目して知見を整理していく。それにより、「女子力」を示すとされる項目や用語が、従来の男らしさ・女らしさを示す語や内容とどのように重なるのか、あるいは異なるのかを比較・検討することを目的とする。

Ⅱ. 方法

検索エンジンGoogle Scholarで「女子力」、CiNiiを用いて「女子力」「女らしさ」「女らしさ」「ジェンダー 能力」「性役割 能力」「性役割 適応」「性役割 健康」をキーワードとして検索を行い、日本国内において公開されている日本語の文献を収集した。作業は2016年6～8月に行い、90件が対象となった。この中で、本稿では実際に尺度を用いた質問紙調査と考察等、実証的な研究を行っているものに焦点を当てた。なお、本研究は「女子力」「男らしさ・女らしさ」を示す語に着目するものであり、そういった特性に対して人々がどのような態度・価値観をもっているかに焦点を当てるものではない。このため、主に「性役割態度」「性役割観」について調査・検討した論文は以降の概観の対象外とした。さらに、尺度を用いた質問紙調査については各項目の内容が記載されているもののみを取り扱った。その結果、「女子力」については5件、男らしさあるいは女らしさについては14件となり、合計19件が対象となった。

Ⅲ. 「女子力」および男らしさ・女らしさの概念・測定語の研究動向

本章では、第1節で「女子力」に関する実証研究5つの結果をまとめる。第2節では男らしさ・女らしさの測定語の変遷について、性格・身体・行動の側面に分けて概観する。

1. 「女子力」に関する調査研究

(1) 柘植(2014)「大学生が考える『女子力』とは?: 男女間の認識の相違」⁸⁾

柘植は、「女子力」の意味は多様で曖昧だ、と指摘した上で、「女子力が高い」の評価が男性と女性で異なるのではないかと、という点に着目した。具体的には、女性の外見を評価するか、内面を評価するかという点で異なるのではないかと考え、調査をした。さらに、高井・岡野(2009)⁹⁾などの先行研究で指摘された女らしさに関する調査結果との対比を行った。

大学生の考える「女子力」に関しては、名古屋大学の1年生の男子20名、女子26名を対象にした質問紙調査を行い、「女子力が高い」女子とはどのような人だと思うか、について外見と内面への評価に関する25項目の選択肢を挙げ、あてはまるものを全て選択させる形式で答えさせた。

結果として、「料理が上手」「家事ができる」といった伝統的な性役割を挙げた回答が多くなった。さらに、2009年の高井・岡野論文⁹⁾で女らしさの中に挙げられていた「控えめ」「男性を立てる」と類似した項目である「おとなしい」「控えめ」については、柘植の調査では男女ともほとんど選択されておらず、この点が「女子力」と女らしさとの相違であるとされている。また、男子と女子が考える「女子力」の差異が大きかった項目を考察すると、女子は「女子力」を外見でとらえ、男子は「女子力」を内面でとらえていることが明らかになった。表1に柘植論文で用いられた項目と選択率を示す。

(2) 近藤(2014)「『女子力』の社会学: 雑誌の質的分析から」¹⁰⁾

近藤は社会学の立場から、2002年から2012年7月分までの「女子力」をタイトルに含む雑誌記事の質的分析を行い、「女子力」を「男性指向」「自分指向」「女子指向」「仕事指向」の4類型に分類した。1つめの「男性指向」は、2009年まで最も記事が多かった類型である。「女子力」という言葉が広がり始めた2002～2003年においては、モテることそのものが「女子力」であった一方で、その後は“『女は美しくなければならない』、『男性から愛されるためには美しくなければならない』という美の神話”(p. 29)に変化していったとしている。「男性指向」に替わって2010年以降最も多い類型が2つめの「自分指向」である。近藤は、“自分指向の女子力は女性的特性から乖離した意味内容を持つこともある”(p. 29)とし、焼肉を食べることやメンズシャンプーを使うといったいわば男性的な行動をすることも「女子力」に包含されていることを明らかにしている。3つめの類型は「女性指向」である。女性指向の「女子力」では美容やファッションに加えて、“女性の男らしさを女子力という言葉で肯定的に捉え”(p. 30)た自己主張をすることも含まれていると指摘している。4つめは「仕事指向」である。近藤はこの仕事指向の「女子力」をさらに“①「女性の社会進出」、②「男並みに働くこと」、③「仕事の能力に結び付く「女子」的特性、④「仕事と家事・育児の両立」の3つに分類している。

(3) 波多江(2015)「女性商業誌における特定ワードイメージに関する考察」¹¹⁾

波多江は女性商業誌に出現する特定ワードとしての「女子力」に対する認識についての実態調査と雑誌購読の傾向の調査を行った。質問紙作成のために、短期大学2年生の女子学生94名に“あなたは「女子力が高い」という状態をどういう状態だと考えますか”(p. 25)という質問を自由記述回答形式で尋ねた。その答えをKJ法的に分類し本調査用の質問票を作成し、同大学の別の168名(短期大学1年生)を対象に調査し、各項目について「とても当てはまる」を1、「まったく当てはまらない」を4とした4件法で回答させた。52の調査項目のうち、天井効果・フロア効果を除いたのちに因子分析を行った22項目について、その平均値を表1に記載した。主因子法・プロマックス回転による因子分析の結果、男性の目を意識した「女子力」といえる「小悪魔的(したたかさ)」因子と、仕事ができ他者を受容できる度量もあるという「女子力」である「受容的自己確立(強さ)」因子の2因子となった。

(4) 菊地(2016)「『女子力』とポストフェミニズム——大学生の『女子力』使用実態アンケート調査から——」¹²⁾

この論文では社会学の立場から、「女子力」という語彙は現代日本においてジェンダー・セクシュアリティ秩序が再編されている状況を表しているとしている。また、現代(ポスト近代社会)に求められる能力の代表としても「女子力」が挙げられるととらえている。その上で、“じっさいに若い男女のあいだでどのような意味合いで使用されているか”(p. 23)を探るために、愛知県内の大学生782名(男性285名、女性457名、無回答40名)を対象としてアンケート調査を行った。

“「女子力」という言葉において内面と外見どちらを重視するか”(p. 26)との質問においては、女性の73%、男性の87%が「内面」を選択している。しかしながら、結果調査の中の「『女子力』が高いと聞いてイメージすることは?」という質問(複数回答可、項目の選定方法や経緯は不明)では、男性は「家事」を選んだ者が最も多かった一方、女性では「服装」や「メイク」といった外面についての条件の選択が最も多くなり、「家事」よりもわずかに上回った。質問の中で使用されていた項目は表1の通りである。なお、自由回答では男女共に「気配り」が「女子力」が高いときいてイメージすることに挙げられていた。

これらの結果などから菊地は、「女子力」を構成するのは古典的なジェンダー規範であるとしている。回答した大学生たちが、内面を重視する一方で「女子力」の高さの条件に外見的な美やマナーを挙げていたことについては、“「女子力」とは家事や外見の向上のために努力することにあると認識されていると考えれば矛盾しない”(p. 45)とし、自発的に努力する行動や考え自体が「女子力」であると結論づけている。

また菊地論文では「女子力」という言葉が男性に対しても使われることを紹介しており、生得的な意味合いのある「男らしさ」「女らしさ」と比較して、「女子力」が“人工的に努力して後天的に身につけられるもの”(p. 46)と考えられていると説明している。

(5) 田中・戸板(2016)「男性に女性用基礎化粧品を購買してもらうには——女子力男子をターゲットとして」¹³⁾

上記(1)(2)(3)の論文は、主に女性が持ち合わせ、女性が磨く「女子力」に焦点を当て、それらの意味を明らかにしようとするものであり、(4)の菊地論文においては男性においても「女子力」という言葉を使うことを紹介している程度であった。これに対し、田中・戸板論文では男性が持つ「女子力」について扱っている。

田中らは“元来女性が好むもの・すべきこととされてきた行動や考え方をする男性が、ここ数年で増えてきている”(p. 46)とした上で、原田による「女子力男子」の定義を引用している。そして原田(2014)¹⁴⁾が「女子力男子」を“本来、女子(女性)が得意とされていた領域の力(女子力)が備わった男子(男性)”ⁱ⁾としていることなどを受け、美容に興味を持つ男性も「女子力男子」に含まれるとした。

田中・戸板論文においては「女子力男子」が購入しやすくなるような化粧品のプロモーションの検討を目的とし、①女子力男子と呼ばれる男性の存在実態、および②女子力男子の基礎化粧品に対する意識、が調査された。これらのうち、本論文では①の中で用いられている「女子力男子診断」の作成過程とその内容に主眼をおき、概要を述べる。

女子力男子診断に際しては、まず大学生 16 名(男子 7 人、女子 9 人)へのヒアリング調査による 25 項目の作成が行われた。25 項目は、「心遣い」「美容」「健康意識」「ファッション」「モテ意識」「習慣」「容貌」「趣味・特技」「SNS」の 9 カテゴリーからなっていた。次にそれらの項目への男子大学生 47 名による回答の非階層クラスタ分析の結果から、女子力男子とそうでない者の有意差が大きかった 12 項目と女子力男子予備軍のクラスタにおいて値の大きかった 5 項目が選定された。17 項目および、選定されなかった 8 項目の内容は表 1 に示す通りである。

表1 「女子力」の項目について調査している文献とその主要な結果

文献	調査の目的	項目や分類				
柘植 (2014)	女子の「女子力」の中身の男女差の把握	男子が60%以上選択した項目	「料理が上手」「家事ができる」「気が利く」			
		男子が40%以上選択した項目	「おしゃれ」「上品」「言葉づかい、話し方がきれい」			
		女子が60%以上選択した項目	「料理が上手」「家事ができる」「手芸など、趣味が女性らしい」「持ち物がかわいい」「おしゃれ」			
		女子が40%以上選択した項目	「気が利く」「化粧をする」「ネイルアートをやる」			
		男女共に選択率が40%未満の項目	「かわいい」「丁寧」「やさしい」「きれい好き」「自己主張ができる」「男性を立てる」「明るい」「美しい」「字がきれい」「話上手」「おとなしい」「姿勢が正しい」「控えめ」「スタイルがよい」「色気がある」			
近藤 (2014)	雑誌記事タイトルの「女子力」の意味合いの分類	結果：女子力には(1)男性指向(2)自分指向(3)女性指向(4)仕事指向 がある。2009年までは(1)が主流だが、2010年以降は(2)が最多。(2)～(4)には男性的とされてきた行動も含まれている。				
波多江 (2015)	女子短大生が考える女子力が高い状態(右の数値は低いほど女子力にあてはまると評定されたもの)	平均値が1.5以上2.0未満	「アクセサリ等細部まで気を遣う」「いい匂いがする」「気取らない」「謙虚」「自分自身を分かっている」「人を楽しませる話題が豊富」「大人の魅力があり落ち着いた」「男に媚びない」「包容力がある」「流行に敏感」			
		平均値が2.0以上2.5未満	「スタイルがいい」「ナチュラルメイク」「ぬかりがない人」「ボキャブラリーや雑学が豊富」「何でもこなせる人」「感情表現が豊かな人」「仕事ができる人」「他人から特別視される」「物静か清楚(注：原文ママ)」			
		平均値が2.5以上3.0未満	「ガムを持っている」「嘘が上手で男性を持ち上げることできる」「男性にどれだけ気を遣わせられるか」			
菊地 (2016)	「女子力」という語彙が若い男女でどのような意味合いで使用されているかの把握(質問：「女子力」が高いと聞いてイメージするのは?)		男性の選択率	女性の選択率	全体の選択率	男女差(ポイント)
		家事	74.0%	83.4%	80.1%	-9.3%
		マナー	52.3%	60.2%	56.8%	-7.9%
		教養	29.5%	22.5%	24.4%	6.9%
		勉強	4.6%	3.5%	3.7%	1.1%
		向上心がある	11.2%	10.3%	10.7%	0.9%
		コミュニケーション能力	21.4%	19.0%	19.8%	2.4%
		よく笑う	47.7%	83.8%	12.1%	-36.1%
		服装	34.4%	84.5%	70.8%	-50.1%
		メイク	35.1%	70.7%	65.7%	-35.6%
		髪型	26.0%	47.0%	57.7%	-21.1%
		体型	25.3%	48.4%	39.4%	-23.1%
		無駄毛の処理	23.9%	43.1%	40.0%	-19.2%
		肌がきれい	12.6%	26.9%	36.4%	-14.3%
下着に気を遣う	11.6%	12.7%	21.7%	-1.1%		
その他	9.8%	7.4%	7.9%	2.4%		
田中・戸板 (2016)	女子力男子とそうでない男子を区別する指標の作成	女子力男子診断として採用された17項目	「ハンカチを持ち歩いている」「定期的に自撮り写真をSNSに載せる」「化粧水を使用している」「お菓子作りが好きである」「肌の保湿を心がけている」「人に貸す場合を考えて持ち歩いているものがある」「定期的に食べ物の写真をSNSに載せる」「野菜を積極的に食べる」「服に気を使っている」「異性の友人は多い(注：原文ママ)」「こだわって自炊をしている」「健康に気を使っている」「日晒けを気にしている」「体型を気にしている」「異性から魅力的であると思われたい」「美容に関心がある」「トレンドに敏感である」			
		診断指標として選定されなかった8項目	「姿勢がよい」「自炊をしている」「細身である」「香水をつけている」「スイーツが好きである」「髪型を気にしている」「異性からの視線をつい意識することがある」「他人の細かい変化に気付く」			

(6) 小括

男性の考える「女子力」と女性の考える「女子力」は異なり、柘植(2014)⁸⁾が指摘したように、男性は内面、女性は外見で「女子力」をとらえている。この結果は、菊地(2016)¹²⁾の研究でも「メイク」「髪型」「服装」について女性回答者が男性回答者と比べて大幅に多く選択したことからもいえるだろう。また、家事ができることについては男女両方が「女子力」の高さとしてあげており、女子

力男子診断として「こだわって自炊をしている」が選択されている。その一方で、女子力男子診断では「自炊をしている」が選択されていなかった。このことは、ただ家事ができることは「女子力」が高いこととは必ずしも結びついてはいないことを示唆している。

また、近藤(2014)¹⁰⁾によれば、雑誌記事では男性らしい行動も「女子力」に入っているとされるが、柘植(2014)⁸⁾では「自己主張ができる」の選択率は高くない。雑誌記事を書く側として想定している「女子力」と、大学生たちが実際に考える「女子力」にはギャップがあるといえる。

2. 男らしさ・女らしさに関する調査研究

続いて本項では、「男らしさ」「女らしさ」についてどのようにとらえられているかを明らかにした研究を概観する。対象とした文献はⅡ. 方法 に記した 14 件であり、いずれも調査対象者に中学生・高校生・短大生・大学生のいずれかを含む。これらの多くでは、社会通念上で求められる男性および女性の特性、あるいは「男らしさ」「女らしさ」ときいて思い浮かべる要素を対象者に選択あるいは自由記述させている。ただし、神山(2004)¹⁵⁾においては「(男性／女性である)自分自身にあてはまる行動」を選択させている。

「男らしさ」「女らしさ」の測定語は多岐にわたるため、本研究ではそれぞれの項目を性格・行動・身体 の 3 つに分けて測定語の変遷を整理する。なお、以下(1)～(4)において、文献中の項目内容の原文は“ ”で、結果のまとめと考察のために似た概念の項目をまとめたものは「 」で囲んで記す。

(1) 性格

性格的特徴における男らしさおよび女らしさを示す語は、それぞれ以下の表 2、表 3 のようになった。

表2 先行研究における、性格に関する「男らしさ」を示す項目の整理ⁱⁱ⁾

文献名	対象者・調査	本表に掲載している項目・カテゴリは	意志が強い	柔軟な性格がある	冷静な頭がある	忍耐強い	自信がある	積極的	決断力がある	風流心がある	競争心がある	剛性があ	仕事に熱心	責任感	女性をリードする・男性的に依存的	女性を認める・男性性的一目お	余裕がある	協調性がある
柏木(1967)	中高女の男女学生280名	男子・女子いずれかの選択において、男性に求められるものと女性に求められるもの、両方意識があったもの(男>女)	M	M	M	M	M	M	M				M	M	M	M		
伊藤(1978)	20~60歳男女80名(男40、女40)	Masculinityとして採用された項目	M	M			M	M	M			M						
藤野・堀尾(1985)	男女中学生635名	男女それぞれに求められる役割期待を選択させ、男女生被験者で被験者のみられた項目	M		M		M		M						M	M		
山口(1985)	中高生153名へのアンケート後、臨床心理学専攻の大学院生21名によりカテゴリ分けされたものうち、Masculinity-mnとして採用された項目		M		M			M			M							
姫野(1998)	大学生230名(男93、女137)	「男らしさ」についての男性の自由記述回答上位10個	M						M	M								M
柏尾・土肥(2000)	女子短大生259名	女性性の自由記述回答上位10個	M						M	M								M
加知(2002)	大学の心理学受講生108名(男51、女57)	男らしさについて男子の自由記述の分析で出てきたカテゴリ	M						M									M
置村・岡井・藤野(2003)	大学生453名(男190、女263)	因子分析結果で採用された項目	M				M		M									M
関根(2005)	女子大生165名	女性性の項目の中で、男性役割として女性役割より有意に高く求められていたもの	M						M	M								
藤井・岡野(2009)	大学生95名	自由記述回答で男子3人以上が書いたもの	M		M				M	M								
守(2010)	大学生42名(男20、女22)	男女それぞれに求められる性格特徴で有意差があったもの(男>女)	M		M				M									M
水石・北方(2013)	10~30代男女419名	因子分析結果から採用された「男らしさ」の項目	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M

Mは、複数項目をまとめたもの。(内訳は本文末尾の注目に記載)

表3 先行研究における、性格に関する「女らしさ」を示す項目の整理ⁱⁱⁱ⁾

文献名	対象者・ 回答者	本表に掲載している 項目・カテゴリは	#						項目						
			やさしい #	家庭的な #	かわいい #	一歩引く #	心が広い 静かな #	感情的な #	明るい 眼の 色あ る #	視野の 広い #	繊細な/ 気遣い、 繊細 #	しなやかな 就実 な わいり 配 強 い 分 析 常識 がある	清楚		
柏木 (1967)	中高大の男 女学生280名	男子・女子いずれかの 選択において、男性に 求めるものと女性に求 めるもので有意差が あったもの(女>男)	F	F	F	F									
伊藤 (1978)	20～61歳男 女80名(男 40、女40)	Femininityとして採用さ れた項目				F				F	F				
諸野・ 南尾 (1985)	男女中学生 635名	男女それぞれに求めら れる役割期待を選択さ せ、男女生徒間で最も みられた項目	F	F	F										
山口 (1985)	中高生153名へのアンケート後、臨 床心理学専攻の大学院生21名により カテゴリ分けされたもののうち、 Femininity-womanとして採用された項目		F		F	F		F			F				
飯野 (1998)	大学生230名 (男93、女 137)	「女らしさ」について の女性の自由記述回答 上位10個 女性の自由記述回答上 位10個	F	F	F					F		F	F		
柏尾・ 土肥 (2000)	女子短大生 259名	女性性として採用され た項目			F					F	F				
加地 (2002)	大学の心理 学受講生108 名(男51、 女57)	女らしさについて男子 の自由記述の分析で出 てきたカテゴリ 女子の自由記述の分析 で出てきたカテゴリ	F				F								
荒村・ 柳井・ 堀 (2003)	大学生453名 (男190、女 263)	因子分析結果で採用さ れた。女性特性の項目			F		F								
関根 (2005)	女子大生165 名	女性性の項目の中で、 女性役割として男性役 割より有意に高く求め られていたもの	F	F	F		F		F	F	F		F		
高井・ 岡野 (2009)	大学生99名	「女らしさ」について の自由記述回答で男子 3人以上が書いたもの 自由記述回答で女子3 人以上が書いたもの	F	F	F	F	F		F	F	F		F		
守 (2010)	大学生42名 (男20、女 22)	男女それぞれに求めら れる性別で有意差が あったもの	F		F										

#のついている項目は、複数項目をまとめたもの。(内訳は本文末尾の注記に記載)

まず男らしさについてみると、「積極的な」(「積極的な」「活発な」「大胆な」「行動力のある」など)および「意志が強い」(「意志強固な」「信念を持った」など)といった意味の用語は柏木(1967)¹⁶⁾の調査以降一貫して用いられていることがわかる。また、柏木(1967)¹⁶⁾の調査などで挙げられている「理想がある」(「理想をもった」「冒険心に富んだ」「野心家である」など)も大石(2013)¹⁷⁾に至るまで男らしさを示す語として使われているが、同じく柏木(1967)¹⁶⁾で挙げられている「現実的」という語は他の文献においては選択されていない。そして、「女性をリードする」については猪野・荆尾(1985)¹⁸⁾までは女性と男性の特徴を区別する項目とされていたようであるが、以降の調査ではそのような報告はみられなかった。対照的に、「頼りがいがある」(「頼りがいのある」「人望がある」「人に好かれる」)については柏尾・土肥(2000)¹⁹⁾以降の多くの文献で出現していることから、女性にとつてのみならず、他の人にとって頼れるのが男らしさであると考えられるようになったと考えることができる。「指導力がある」「決断力がある」については、2010年代では男らしさを示す語から外れ、大石(2013)¹⁷⁾では「協調性がある」が挙げられている。ここからは、自分の意志を通したり周囲を率いたりすることよりも調和が重視されるようになってきた可能性がうかがえる。

性格の女らしさを示す語については、「かわいい」(「かわいい」「愛嬌のある」)が表に記載している全ての文献で挙がっており、「やさしい」(「やさしい・やさしさ」「思いやりある」「気持ちの細やかな」など)も各年代を通して多くの文献において採用されていた。「やさしい」については表2の男らしさでは飯野(1998)²⁰⁾以降で用いられているが、女らしさを示す語としてはそれよりも以前の年代から認められていたことになる。一方で、「心が広い」(「心の広い」「包容力」)については伊藤(1978)²¹⁾ではHumanityという男らしさ・女らしさどちらでもない項目だったが、男らしさを示す語として飯野(1998)²⁰⁾以降挙げられ、さらに高井ら(2009)⁹⁾では女らしさとして記述されている。「家庭的な」も多くの調査で記述・選択されているが、「明るい」(高井ら, 2009)⁹⁾や次項(3)で述べる行動の女らしさにおける「料理ができる」(加知, 2002, 萱村・駒井・黛, 2003)²²⁾²³⁾などに細分化されてきていることがわかる。また、1990年代、2000年代の調査では「従順な」「ひかえめ」「男を立てる」といった“一歩引く”ことを示す項目については挙げられておらず、飯野(1998)²⁰⁾の「芯が強い」、関根(2005)²⁴⁾の「分析的な」のように男性性にも通じると考えられるような項目がみられている。なお、これらの“一歩引く”意味の項目については、高井ら(2009)⁹⁾では挙げられたものの守(2010)²⁵⁾ではみられていないなど、近年において女らしさとしてとらえられているか否かについて見解が一致していない。

(2) 身体

身体や外見的特徴における男らしさおよび女らしさを示す語は、それぞれ以下の表4、表5のようにまとめられた。

表4 先行研究における、身体に関する「男らしさ」を示す項目の整理

文献名	対象者・回答者	本書に掲載している項目は	背が 高い	たく ましい	筋肉質の 腕・脚・ 胸が筋肉 質	肩は ばか りつ た	背が ひく い	食べ る量 多い	手が 大き い	髪が 長い	まゆ毛 がうす い	肩が なで る	体格のよ さがあ る	体力が ある	身体力持 ちである	大石・北方(2013) の因子 (見た目のよ さ)
植本 (1967)	中高大学生男女 280名	男子・女子いずれかの選択に おいて、男性に求めるものと 女性に求めるもので有意差が あったもの(男>女)	M	M												
落野・典 尾(1985)	男女中学生 635名	男女それぞれに求められる役 割期待を提示させ、男女生能 力差のあった項目	M	M												
伊藤(1978)	20~61歳男女80 40名(男40, 女 40)	Masculinityとして採用された 項目			M											
山口(1985)	中学生153名へのアンケート後、臨床心理学専 攻の大学院生21名によりカテゴリ分けされた もののうち、Masculinity-mmとして採用された 項目		M		M	M										
大山(1995)	大学生143名 (男66, 女67)	項目選定の結果、男らしさ独 自と考えられる因子(男女の 自由記述は除く)	M		M		M	M	M	M	M	M	M			
飯野(1998)	大学生250名 (男95, 女 137)	「男らしさ」についての男性 の自由記述回答上位10個 女性の自由記述回答上位10個		M									M			
植本・土 肥(2009)	女子大学生 239名	男性性として採用された項目		M									M	M		
加知(2002)	大学の心理学受 講生108名 (男51, 女57)	「男らしさ」についての男子の 自由記述の分析で出てきたカ テゴリ		M												
萱村・駒 井・橋 (2003)	大学生453名 (男190, 女 263)	因子分析結果で採用された、 男性性特長の項目		M												
関根(2005)	女子大学生165名	男性性の項目の中で、男性役 割として女性役割より新意に 高く求められていたもの		M												
高井・岡 野(2009)	大学生93名	「男らしさ」の自由記述回答 で男子より多い項目		M										M		
守(2010)	大学生42名 (男20, 女22)	自由記述回答で女子より高 い項目		M										M		
大石・北 方(2013)	10-50代男女 419名	男女それぞれに求められる性 役割で有意差があったもの 因子分析結果から採用された 「男らしさ」の項目	M	M												

※各タイプの項目は1/700の確率で出現する。この表が調査のデザインがよりリアルなシミュレーションを反映し、行動を促さない。/700項目

表5 先行研究における、身体に関する「女らしさ」を示す項目の整理

文献名	対象者・回答者	本書に掲載している項目は	項目													
			きれい・美しい・容顔の要	曲線的な/女性的な体型	背が高い	ウエストが太い	脚が細い	肌のきめがこまかい	足が細い	手首が細い	肌の色が白い	体重が軽い	指が細い	腕がうすい	体毛がうすい	しぐすがかわりして美しい
柏木 (1967)	中高大の男女学生280名	男子・女子いずれかの選択において、男性に求めるものと女性に求めるものので有意差があったもの(女>男)		F												
藤野・高尾 (1985)	中学生男女635名	男女それぞれに求められる役割期待を選択させ、男女生徒間で差のみられた項目		F												
山口 (1985)	中高生153名へのアンケート後、臨床心理学専攻の大学院生21名によりカテゴリ分けされたもののうち、Femininity-womanとして採用された項目			F	F											
大山 (1995)	大学生143名 (男66, 女67)	項目選定の結果、女らしき強自と考えられる因子 (男女の生涯差は除く)				F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
藤野 (1998)	大学生230名 (男93, 女137)	「女らしさ」についての男性の自由記述回答上位10個 女性の自由記述回答上位10個	F													F
高井・岡野 (2009)	男女大学生93名	「女らしさ」の自由記述回答で男子3人以上が書いたもの 自由記述回答で女子3人以上が書いたもの	F													F
守 (2010)	大学生42名 (男20, 女22)	男女それぞれに求められる役割期待で有意差があったもの (女>男)	F													

※「しぐすがかわいい」については性格とも考えられるが、文献上で「身体的女らしさ」として挙がっていたためここに記載する。

男らしさについては、各年代の研究を通じて「たくましい」がほぼ一貫して挙げられ、選択されていることがわかる。加えて、1980～1990年代の調査では体格の良さや筋肉があることなど、意識して生活・行動することによって獲得される外見的な特徴が男らしさを示す語として出てきているとも考えられる。そして、「背が高い」については2000年代にはみられておらず、特に自由記述においては挙がっていない。守(2010)²⁵⁾の調査が柏木(1967)¹⁶⁾で示された項目を用いていることも考慮すると、「背が高い」ことは男性の特性を表しているものの男らしさであるとはとらえられていないといえる。

身体に関する「女らしさ」を示す語については、「きれい・美しい」または「容顔の美しい」がどの年代の文献においても選択されていた。「曲線的な」「柔らかさ」といった特徴は山口(1985)²⁶⁾など、1980～1990年代の研究において挙がっている。これに比べると、大山(1995)²⁷⁾での肌に関する特徴や細さについての項目、高井ら(2009)⁹⁾での「清潔」のように、生得的であるともいえるが維持が必要な身体的特徴が女らしさとして考えられるようになったと考えられる。あるいは、近年になって女らしさが従来よりもさらに細分化されてとらえられるようになったともいえそうである。

(3) 行動

行動についての「男らしさ」および「女らしさ」を示す語は、それぞれ以下の表6、表7のように整理できた。

表6 先行研究における、行動に関する「男らしさ」を示す項目の整理

文献名	対象者・ 回答者	本書へ掲載している項目は	項目								
			経済力 がある	学歴の ある	ひとりで独立 して生きてい ける	社会的 に活躍 する [#]	スポン を多用 する	髪をショー ト・ヘアにす る	遊具 を購入 する	トレーニング 用具・機器を 利用する	性的な商品購 入・情報閲覧 ^{##}
柏木 (1967)	中高大の男 女学生280名	男子・女子いずれかの選択 において、男性に求めるもの と女性に求めるもの有意差 があったもの（男>女）	M	M							
荻村・ 駒井・ 廣(2003)	大学生453名 （男190, 女 263）	因子分析結果で採用された 男性特性		M	M	M					
神山 (2004)	大学生250名 （男126, 女 123, 不明 1）	自身に当てはまる行動(7段 階評定)について、男女で有 意差があり男性の評定値が 高かったもので、平均値差 が2未満だったもの					M	M	M	M	M
高井・ 岡野 (2009)	大学生93名	自由記述回答で男子3人以上 が書いたもの	M								
守(2010)	大学生42名 （男20, 女 22）	男女それぞれに求められる 性役割で有意差があったもの （男>女）	M	M							
大石・ 北方 (2013)	10-50代男女 419名	因子分析結果から採用され た「男らしさ」の項目	M			M					

[#]社会で重要な人物になりやすい、社会的に活躍する、社会経験が豊富である ^{##}インターネットのアダルト・サイトにアクセスする、
ポルノ雑誌を購入する、AV（アダルト・ビデオ）を購入する、ポルノ映画をみる。ヌード写真集を購入する
なお、神山（2004）については「男」という語が含まれる項目と、（7件法において）男性の回答平均が1点台である項目は除いた。

田園調布学園大学紀要

[illegible]

男らしさについては、各年代の研究を通じて「学歴のある」と「経済力がある」に関連した測定語がほぼ一貫して挙げられている。また、2000年代からは「ひとりで独立して生きていける」や「社会的に活躍する」といった経済力以外の社会性に関する項目が加わってきている。また、消費行動を研究した神山(2004)¹⁵⁾からは性的な消費行動や体を鍛えることが男らしさであると考えられていることがわかる。ただし、全体的には守(2010)²⁵⁾の調査が柏木(1967)¹⁶⁾で示された項目を用いていることも考慮すると、行動についての男らしさは大きな変化がなく、また消費行動と結びつけた研究はこれまでほとんどなかったといえる。

行動に関する女らしさを示す語については、「品がある」(「言葉遣いのていねいな」「上品」「おしとやか」など)と「おしゃれな」に関連する測定語がどの年代の文献においても選択されていた。2000年代以降の研究では家事に関する行動が測定語に現れるようになってきた(加知, 2002; 萱村ら, 2003)²²⁾²³⁾こともわかる。ここからは、従来は柏木(1967)¹⁶⁾のように「家庭的な」という項目で性格としてまとめて聞かれていたものが、具体的な行動として質問されるようになったことが考えられる。なお、消費行動に関する神山(2004)¹⁵⁾の研究を除けば、女らしさを消費行動の側面でもとらえた研究はなく、関連がうかがえる項目も「化粧上手」(加知, 2002)²²⁾にとどまる。

(4) 小括

男らしさ・女らしさについての測定語を概観すると、1960年代から現在に至るまで一貫して用いられているものがいくつかみられる。具体的には、男らしさにおける「積極的な」「意志の強い」「たくましい」「学歴のある」「経済力がある」、女らしさにおける「かわいい」「やさしい」「きれい・美しい」「品がある」が挙げられる。一方で、「やさしさ」のように女性の特徴と考えられていたものがのちに男らしさにもあてはまると選択されるようになったり、「包容力」のように男らしさを示すとされていた項目が女らしさについての自由記述でも出現するようになったりしていた。行動の中でも消費行動に関する研究は神山(2004)¹⁵⁾以外にはない。身体・外見的特徴については、男らしさについては1980～1990年代、女らしさについては1990年代末以降に、それぞれ努力して獲得・維持する必要がある特徴が挙げられていた。

Ⅳ. 考察

1. 先行研究における「男らしさ・女らしさ」と「女子力」の測定語の比較

以上に述べてきた、「女子力」および男らしさ・女らしさの測定語を比較すると、主に以下の2つの相違点が考えられた。

第一は、「女子力」の高さについては外見をよくするための行動に関する質問項目が多く作成・使用されているが、それらは先行研究での男らしさ・女らしさではほとんど質問項目にされていない

かった点である。行動面では、神山(2004)¹⁵⁾のみで行動に関する質問項目が用いられているが、これは消費行動という条件をつけて調査しているものである。一方で、「女子力」についての上記の文献5件全てにおいて、行動という条件を設けずに対象者に問うたにもかかわらず、「女子力」の高さとして外見をよくするための行動が挙げられている。そしてそれらは男性回答者ではなく、女性回答者によってより多く選択・回答されていた。具体的には「ネイルアートをする」「アクセサリー等細部まで気を遣う」「ムダ毛の処理」「日焼けを気にしている」などが「女子力」の高さと結びつくと言われるが、これらは「女子力」が消費や日々の努力で身につけられる・高められるものであるとイメージされるためだと考えられる。なお、身体や外見に関する「女子力」の高さを示す項目として「スタイルがよい」「いい匂いがする」が挙げられていることを考慮しても、「女子力」がポスト近代的な能力といった「能力」の一種であると考えられるよりも、「女子力」が比較的短期間に努力し、ノウハウに基づいて行動すれば獲得・維持できるものととらえられているといえよう。

第二に、“かわいい”“やさしい”といったような女らしさを一貫して表してきた項目が「女子力」の高さを示す項目としては採用・選択されていない点が挙げられる。例えば、柘植(2014)⁸⁾ではこれらの項目は使われたものの、「かわいい」は40%未満、「やさしい」は20%未満の選択率であった。また、菊地(2016)¹²⁾では測定項目として「かわいい」「やさしい」をはじめとする性格に関する項目をほぼ使用していなかった(注:「向上心がある」は使われているが採択率は低かった)。一方で、波多江(2015)¹¹⁾での「大人の魅力があり落ち着いている」「男に媚びない」といった項目のように従来の女らしさとは異なる性格特性が「女子力」の高さとして挙がるようになった。先に述べたように「女子力」が生得的なものではなく行動などで獲得できるものであると考えれば、元々の“かわいさ”は「女子力」の高さとは必ずしも合致するものではないのかもしれない。また、女らしさの中でも“かわいさ”がいわゆる女の子らしさも含むものとも想定できるが、「女子力」では大人の魅力に関する自由記述が出ていることなどから、一人の大人の女性としての能力と考えられている可能性がある。そして、「女子力」の高さとして「やさしさ」は特に採用されていないが「気が利く」は選択されていることも、「女子力」が見えやすく臨機応変な行動、つまり本田(2005)⁴⁾でいうハイパー・メリットクラシーで評価される“場面場面における個々人の実質的・機能的な有用性”(p. 22)に結びついた特性・能力であることを示している。この点からは先ほどと反対に、「女子力」がポスト近代的な能力の一種であるとも考えられそうである。

「女子力」を示す項目についてのその他の特徴としては、女らしさで出現していた、男性や他者の前で“一歩引く”といった項目が柘植(2014)⁸⁾では選択率が低くなっていたり、波多江(2015)¹¹⁾ではそれと反対の概念ともいえる「男に媚びない」が選択されたりしていることが挙げられる。加えて、男らしさの項目で出ていた「流行に惑わされない」とは反対に、「女子力」では「流行に敏感な人」(波多江, 2015)¹¹⁾が挙げられ、「女子力男子」の項目についての田中・戸板(2016)¹³⁾では「トレンドに敏感である」が採用されていた。

以上から、「女子力」とは従来の女らしさとはやや異なるものだといえる。「女子力」は長期間の

努力を要せずに後天的かつ消費行動によって短期間に手に入るものであると考えられている。そして、「女子力」を高めることで手に入れることのできる外見のよさを重視するのは主に女性であり、男性は外見についてそれほど評価していないこともうかがえた。加えて、消費行動以外では直接的に役に立つものが「女子力」として考えられている。性格や消費以外の行動では、女らしさから「やさしさ」「かわいさ」が消え、「気が利く」「家事ができる」「料理が上手」が「女子力」に引き継がれている点がそれを示している。

2. 課題と展望

本研究の結果から、性別ごとに「女子力」についての認識が異なることが明らかになった。このため、今後、日本の男女がどのように「女子力」をとらえているか、そしてそれらと適応がどのように関連するかについて精査することには意義があると考えられる。「女子力」が比較的容易に身につくと考えられていることや、男性に対しても「女子力」の高低を評価する風潮があることから、「女子力」の獲得願望や自己認識とメンタルヘルスの関連などについて調査していく必要があるといえる。

そして、検証の際には女らしさと「女子力」を分けてその影響を見る必要があるだろう。本研究によって、女らしさと「女子力」は現在のところ直接的には比較されていないことも明らかになったからである。これらの比較・検討を行ってこそ、本論文の題目である「「女子力」と「男らしさ・女らしさ」に違いはあるか」の本来の結果を示せるだろう。

以上に述べた課題に応えることで、本分野の研究をさらに進めていきたい。

〈注〉

- i) 正確には、原田(2014)では「女子力男子」は“従来、女性がやっていたり、得意とされたりした領域の力が備わっている男性”(p. 17)と記されている。
- ii) 表2において、複数項目をまとめたものの内訳は次の通りである。なお、まとめる際には筆者らがKJ法で分類した。

表2でまとめたもの	もとの文献中で用いられていた項目
指導力がある	指導力のある、リーダーシップ
理想がある	冒険心に富んだ、チャレンジ精神がある、野心家である、夢を持っている、理想をもった
積極的な	積極的な、活発な、勇敢な、男気がある、エネルギッシュな、豪快である、大胆な、行動力のある
意志が強い	意志強固な、信念を持った、自己主張のできる、はっきりとものを言う、率直である、自分をもっている、自然体でいられる、一貫性がある
決断力がある	決断力のある、判断力
潔い	潔い、サバサバしている、さっぱりした
やさしい	優しい、人情がある
闘争的な	闘争的な、競争力がある
仕事熱心な	仕事に専心的、経済力のある、一人で独立して生きていける
社会に目が向いている	政治に関心のある、社会で重要な人物になりやすい、社会的に活躍する、社会経験が豊富である
忍耐強い	忍耐強い、弱音を吐かない、弱みを見せない、根性がある、精神力が強い、笑顔を絶やさない、愚痴らない
自信がある	度胸がある、自信のある、堂々としている
冷静な	冷静・落ち着き、理性的
柔軟性がある	柔軟性がある、視野の広い
心が広い	心の広い、寛大である、包容力
真面目である	真面目である、誠実な、硬派である、けじめがある
個性がある	個性がある、我が道を行く、流向に惑わされない、こだわりを持っている
頼り甲斐がある	頼りがいのある、人望がある、人に好かれる
頭がよい	頭がよい、学歴のある

- iii) 表3において、複数項目をまとめたものの内訳は次の通りである。なお、まとめる際には筆者らがKJ法で分類した。

表3でまとめたもの	もとの文献中で用いられていた項目
品のある	言葉遣いのいい、上品、気品、おしとやか、行儀よい、優雅な
やさしい	思いやりある、人の気持ちのわかる、人の立場に立って考えられる、よく気のつく、やさしい・やさしさ、気持ちの細やかな
心が広い	心の広い、包容力
静かな	静かな、おとなしさ
感情的な	感情的な、情緒的な、冒険的な物語よりも感傷的な物語を好む
一步引く	ひかえめ、謙遜な、従順な、男を立てる、献身的な
かわいい	かわいい、愛嬌のある
家庭的な	家庭的、愛情豊かな、こども好き

〈文献〉

- 1) 朝日新聞社, コトバンク デジタル大辞泉 女子力とは,
<https://kotobank.jp/word/%E5%A5%B3%E5%AD%90%E5%8A%9B-534689>, 2016/11/14.
- 2) 自由国民社, 現代用語の基礎知識 選 2009 ユーキャン新語・流行語大賞 候補語, <http://singojiyu.co.jp/old/index.html>, 2016/11/18.
- 3) アド・スタディーズ編集部, 中村公法:市場を創る言葉の特質——「自分事化への鍵」としての言葉, アド・スタディーズ, 52 :pp.45-48, 2015.
- 4) 本田由紀:多元化する「能力」と日本社会:ハイパー・メリトクラシー化のなかで, NTT出版, 2005.
- 5) 鹿内啓子, 後藤宗理, 若林満:女子大生の社会的・職業的役割意識の形成過程に関する研究——性役割タイプと自己能力評価を中心として——, 名古屋大学教育学部紀要.教育心理学科, 29 :pp.101-136, 1982.
- 6) 山本雅代:青年期における性役割タイプと適応について, 仁愛大学研究紀要, 3 :pp.39-46, 2005.
- 7) 三川俊樹, 井上知子, 芳田茂樹:青年期における人格形成と精神的健康に関する研究(V)——性役割および自我同一性地位と役割受容・充実感の関連——, 追手門学院大学文学部紀要, 25 :pp.51-67, 1991.
- 8) 柘植結月:大学生が考える「女子力」とは?:男女間の認識の相違, 名古屋大学高等教育研究センター 名古屋大学学生論文コンテスト :pp.1-10, 2014.
- 9) 高井範子, 岡野孝治:ジェンダー意識に関する検討:男性性・女性性を中心にして, 太成学院大学紀要, 11 :pp.61-73, 2009.
- 10) 近藤優衣:「女子力」の社会学:雑誌の質的分析から, 女子学研究, 4 :pp.24-34, 2014.
- 11) 波多江俊介:女性商業誌における特定ワードイメージに関する考察, 熊本学園商学論集, 19(2):pp.23-33, 2015.
- 12) 菊地夏野:「女子力」とポストフェミニズム——大学生の「女子力」使用実態アンケート調査から——, 名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』, 25 :pp.19-48, 2016.
- 13) 田中郁名, 戸板芳香:学生論文 男性に女性用基礎化粧品を購買してもらうには:女子力男子をターゲットにして, 日経広告研究所報, 50(3):pp.46-51, 2016.
- 14) 原田曜平:女子力男子—女子力を身につけた男子が新しい市場を創り出す, 宝島社, 2014, 238p.
- 15) 神山進:「被服と性の消費行動」とそれを規定するライフスタイル要因—大学生における「被服と性の消費行動」—, 繊維製品消費科学, 11 :pp.800-810, 2004.
- 16) 柏木恵子:青年期における性役割の認知, 教育心理学研究, 15(4):pp.193-202, 1967.
- 17) 大石さおり, 北方晴子:現代日本社会における男らしさ測定尺度の作成, 文化学園大学紀要 服装学・造形学研究, 44 :pp.63-73, 2013.
- 18) 猪野郁子, 荊尾千恵子:性役割について(I), 島根大学教育学部紀要(人文・社会科学), 19 :pp.15-23, 1985.
- 19) 柏尾眞津子, 土肥伊都子:ジェンダー・スキーマの多次元性に関する検討—性格特性と被服・化粧行動の場合—, 繊維製品消費科学, 41(11):pp.33-43, 2000.
- 20) 飯野晴美:大学生が抱く「男らしさ」「女らしさ」のイメージ, 日本性格心理学大会発表論文集, 7 :pp.80-81, 1998.
- 21) 伊藤裕子:性役割の評価に関する研究, 教育心理学研究, 26(1):pp.1-11, 1978.
- 22) 加知ひろ子:男・女らしさに関わる意識——大学生を対象に——, 日本教育心理学会総会発表論文集, 44 :p.295, 2002.
- 23) 萱村俊哉, 駒井説夫, 黛誠:大学生における性役割意識と身体満足度, 及びそれらの関連性についての検

- 討 性差及びスポーツ経験の差に着目して, 武庫川女子大紀要(人文・社会科学), 51 :pp.67-79, 2003.
- 24) 関根聡: 女性大学生における性役割意識, 大阪女学院短期大学紀要, 35 :pp.75-84, 2005.
- 25) 守秀子: 大学生における性役割認知の変化, 文化女子大学長野専門学校 研究紀要, 2 :pp.19-32, 2010.
- 26) 山口素子: 男性性・女性性の2側面についての検討, 心理学研究, 56(4):pp.215-221, 1985.
- 27) 大山治彦: 身体の男らしさ・女らしさと自尊感情の関連について, 家族社会学研究, 7 :pp.69-79, 1995.